

手水の文化を残したい

宮師プロデュース新しい参拝スタイルの提案 「マイひしゃく(手水日和)」誕生

株式会社唐箕屋本店 代表取締役社長 小保田 庸平さん



株式会社唐箕屋本店は、岐阜市美園町にて、神社仏閣などに携わる建築業を営み、今年で126年目を迎える老舗神具店です。
今月号では、「コロナをきつかけにして生まれた「マイひしゃく」という新しい参拝スタイルの開発を手掛けた四代目社長 小保田庸平さんに、家業について、そして今後についてお伺いしました。

明治28年創業。「唐箕屋」という屋号は、風力を利用して穀物や豆類を粉砕やゴミと選別する「唐箕」と呼ばれる桧製の農機具を製造していたことにより名付けられました。その後、農機具は機械化の流れにより需要が減少。そこで、これまでの製造技術を活かし、神棚や御神輿の製作、また社寺建築を手掛ける宮大工・宮師へと変革し、昭和55年に株式会社唐箕屋本店と改組。宗教用具製造販売及び宮大工業を営みます。

建築好きが後継ぎに

平成16年。老舗の四代目に就任したのが小保田庸平さん、当時29歳でした。
子どもの頃の「将来の夢」は大工になることでした。以来、ずっと建築に興味があり、名古屋工業大学で建築学を学んだ際にも、改めて自分ものづくりが好きなのだ実感していました。
しかし卒業後は、別の道へ。それでも建築への興味は心の中で続いていました。

そんな中、あるきっかけにより唐箕屋本店を知りました。工場を訪れると、立派な御神輿が置いてあるのが目に留まりました。すぐさま近寄った小保田さんはその出来栄のすばらしさに心から感銘し、建築への気持ちが再燃したことを今でも鮮明

に思い出します。
「直に、三代目に会いに行き、働かせてほしいと懇願したところ、ありがたいことに、快く了承していただき、今に至ります」
これが更に良きご縁となり、三代目の次女と結婚し、そして後継ぎ・四代目となりました。
現在44歳。創業以来代々受け継がれてきた「お客様との信頼を守る」という、精神を基軸に、宮師として伝統文化承継に、日々まっすぐに向き合っています。

コロナ禍の発想で新提案

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、コロナ感染防止対策として全国の神社仏閣の手水舎から柄杓が撤去されるようになりました。
そのような状況のなかで、小保田さんはある神社の神主さんから「手

水をする何かいい方法はないか」と相談を受けました。
こんな時こそ何とか力になれないかと思い悩む中で、ふと「マイ箸」や「御朱印帳」などの「自分専用」が近年ブームになったことを思い出しました。

「だったら、自分専用の柄杓があってもいいんじゃないかと。自分専用ならば小さくて持ち運びができるものを考えました」
早速、試作品を作り始めました。「自分専用として持ち運ぶならデザイン的にも優れたものを目指しました。例えば、ちよつと便利で格好がいいかもと、ストラップを付けてみることに。ちよつと長めから短くしてどんどん短いものを作ってみて」と、これだけ短いとちよつと柄杓感がないよね、などと、社員皆で意見を出し合いました」

宮師の「こだわり」で作り上げたい

そして、何よりこだわりたかったのは「岐阜で作る」というブランド。全国の方々に岐阜のものづくりの良さを知ってほしいという思いでした。材料には岐阜県のブランドの桧である「東濃桧」を使用し、作り方にもこだわりました。

「桧の削り出しと違って、一本の木から中をくり抜いてカップの部分を作ります。従来の柄杓は『曲げわっぱ』と違って、桧の薄い板を曲げて作ります。小さくすればするほど、桧の薄板も更に薄い板になり、どうしても鞆に入れば割れやすく、底の部分が収縮することによって抜けやすくなるもなります。そこで今回、東濃桧材の1本の木を削り出して器を作る「挽物」という技術を使って丁寧な柄杓を作りました。

そしてもう一つのこだわりが「耐久性」。この柄杓は自分専用、持ち運びをすることが前提。だからこそ、多少値段は高くても耐久性を持たせることで「使い捨てではなく、長く愛用していただきたい」と考え、木製の食器などにも使用されている安心で安全な含浸系ポリマー塗装で仕上げました。それにより、桧無垢材

の弱点でもあるひび割れや日焼けを防ぎ、防水、防カビ、防臭、強度アップの効果も期待できます。
こうして、利便性とデザイン性を兼ね備えた高級感のある柄杓として仕上げていきました。

クラウドファンディングの活用の意義



そして、令和2年10月、いよいよ最初のモデル「マイひしゃく」が誕生しました。
早速、クラウドファンディングで提案したところ、予想をはるかに超える好反応がありました。

「クラウドファンディングを採用した決め手は、唐箕屋本店がどんな会社なのか、そしてなぜこれを作ったのかという背景も知っていただき、その上で商品を購入していただきたい

と考えたからです。クラウドファンディングの良い点は、お客様の声かいろいろ直に入ってくることです。良きに悪しきにお客様の声がたくさん聞けました。特に首都圏の方々を中心に全国の多くの方々にご購入いただきました。改めてこのような取り組みに対して顧客ニーズがあることに気づかされました。今後二層、商品の改良や開発および広報活動に取り組んでいくべきだと感じました」
その反響を受け、開発した第二弾「マイひしゃく」のクラウドファンディングも大好評のうちに終了しました。「新しい日常は、今後の生活において引き続き行われ、新しい文化として残っていきます。私たちは、このマイ柄杓を持参するという新しい参拝スタイルが、日本伝統の手水における新しい文化として根付いてほしいと思いますながら製作しています」

宮師を次代の子どもたちの夢となる職業に

「この業界は『職人業』です。しかも我々だけで完結するわけではありません。大工をはじめ、金具を作る鋳職人、屋根を葺く板金職人、彫刻をする彫刻師と、いろいろな職人たちの協業で御神輿や御社もできていきます。宮師という仕事を通じて、将

来を担う若い世代の子たちがやってみたい、こういう仕事に就きたいなどと、「夢」として持てるような環境づくりや、人材育成に取り組んでいきたいと思っています。時代の移り変わりで、神社仏閣に対する敬神の念が薄れていくといわれている中で、この宮師という仕事で、昔からある文化伝統を、少しでも守るお手伝いができるということは、私自身やりがいがあり誇り高き仕事だと思っています」
夢をかなえた小保田さんだからこそ、強い思いがここにあります。

小保田さんはこれからも、日本のものづくりを後世に伝えながら、柔軟な発想と「新進気鋭」の心持ちで、チャレンジを続けます。



株式会社唐箕屋本店
所在地 岐阜市美園町3丁目4番地
TEL 058-263-3311
営業時間 8:00-18:00
定休日 日曜、祝日、第2・第4土曜日
URL http://www.tomiyahonten.com